実 績 報 告

看 護 部

- 外　　　　　来
- 2　階　病　棟
- 3　階　病　棟
- 4　階　病　棟
- 5　階　病　棟
- 南　　病　　棟
- 中 央 材 料 室

看　護　部

【令和２年３月31日時点の看護部スタッフ数】

看護配置基準	15：1
看　　護　　師	157名（定時・嘱託４名含む）
准　看　護　師	4名
看　護　補　助	19名（定時・嘱託３名含む）

【令和元年度採用者・退職者実績】

	４月１日新規採用者	４月以降既卒採用者	4時間以上勤務のパート採用数	正規職員退職者数
看　護　師	10名（８名新卒）	10名		6名
准看護師				0名
看護補助員				0名

【令和元年度 看護職員の離職率】

新卒看護職員離職率　 0％　（2016年日本看護協会全国調査：7.8％）

常勤看護職員離職率 2.4％　（2016年日本看護協会全国調査：10.9％）

令和２年４月１日現在

【令和元年度活動を振り返って】

令和元年度抱負

①医療事故防止：インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。

令和元年度南浜病院におけるインシデント・アクシデントレポートの総件数は657件（前年度－96件、－13.3％）であった。前年度より４箇病棟が減少し、増加した病棟は１箇病棟であった。

事故の種類上位１位は：転倒・転落259件（前年度－80件、うちレベル３は７件、前年度－２件）２位：薬剤124件（前年度＋３件）、３位：療養上の世話55件、前年度５位からの上昇であるが＋５件であった。

前年度、重大視していた無断離院は17件（前年度－18件）であった。

１位の転倒・転落について、依然、入院者の高齢化、認知機能障害、安全対策の理解と協力困難などが考えられる。特に薬物療法導入後や変更時の異常の早期発見、発見から速やかな個別性、具体性を考慮した対策をスタッフ全員で共通認識、取組むことが肝要であると考えている。

２位の薬剤は前年度より微増、依然ヒューマンエラーによるところが多い。与薬時・中の役割分担の明確化と自覚、習慣化を急ぎたい。

３位の療養上の世話は内訳を見ると誤嚥と自己管理薬取違え摂取が11件で同数であった。誤嚥は食事摂取時が多いため、咀嚼・嚥下機能に見合った食事箋、特に禁食や経口摂取再開時のプロセスが重要で新しく作成したマニュアルの実践に期待したい。

無断離院の減少要因はスタッフが外出泊を事務的、機械的に処理していた傾向から、治療・リハビリの一貫であることを再認識出来、患者様本人、ご家族様とも十分な摺合せ、評価が少しずつ実践、反映され始めていると考える。

令和元年度インシデント・アクシデントレポートの総件数が減少したことをスタッフにフィードバックし、より改善点を見出して行きたい。

②権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。

権利擁護、接遇について、依然、スタッフの自己評価と他者評価に乖離があると考えられる。また、病棟、部署によって雰囲気や行動に差がある。管理、監督者の認識や普段の行動がスタッフに反映されることを指導していきたい。

令和２年度抱負

①医療事故防止：インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。

②権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。

看護部長　**大滝　　寛**

令和元年度看護部業務実績

【社会貢献】

大滝　寛　　公益社団法人新潟県看護協会監事
佐藤敦子　　一般社団法人日本精神科看護協会新潟県支部会計
有田　薫　　新潟精神看護研究会事務局員

【研究発表】

令和元年度 精神科看護研修会 看護研究発表会
主催：一般社団法人日本精神科看護協会新潟県支部
日時：令和元年10月４日
会場：新潟ユニゾンプラザ
研究テーマ　「身体合併症病棟における看護師の死生観・考え」　２階病棟　島有梨佳　井浦瑞穂

【非常勤講師】

令和元年10月17日～10月31日
新潟医療福祉大学健康科学部看護学科精神看護学演習　　笹川雅彦
令和元年５月８日～６月20日
国際メディカル専門学校　精神看護学方法論Ⅰ　　柴田実子　石本和之
令和元年11月７日～令和２年１月28日
国際メディカル専門学校　精神看護学方法論Ⅱ　　柴田実子　鎌田浩子　石本和之　樋山麻由子
令和元年６月１日～10月19日
私立加茂暁星高等学校看護学科専攻科　精神看護方法論Ⅰ　　鎌田　建

【実習生受け入れ】

令和元年11月４日～令和２年２月14日
新潟医療福祉大学健康科学部看護学科　　精神看護学実習24名
令和元年５月８日～10月28日
国際メディカル専門学校　　看護学科81名
令和元年６月20日～６月21日
国際医療看護福祉大学校看護学科通信課程計７名

外　来

【部署名】

外来

【職員数】

４名（看護師３名、准看護師１名）

【業務内容】

平成31年４月から３名の新しい医師を迎え、精神保健指定医８名での外来診療がスタートした。令和２年３月には新型コロナ感染症が全国的に広がったことで、外来でも院内感染防止と感染拡大防止の観点から、様々な対策を講じてきた。（来院者用コロナ質問票の作成、スクリーニングの徹底、対象者への電話診療など）

・診療の補助
・令和２年３月～新型コロナ感染症における対面診療の自粛（電話診療への切り替え）
・持効性注射の実施、点滴や検査（採血、採尿など）、その他処置の実施
・定期検査予定日の設定
・入院時のベッド調整とスクリーニング
・外来予約変更窓口での電話対応
・精神科訪問診療の補助（令和２年１月～）
・夜間休日対応の集計
・院内歯科業務（令和２年１月、歯科衛生士の採用後は補助的に業務に就いている）

【今後の展望】

・予約時間内に診察が行えるよう調整。
・病棟、訪問看護、医療相談室、デイケア等、他部署多職種との情報共有と連携。
・未受診者の把握と、タイムリーな働きかけ。
・流行期にある感染症状況を常に把握し、業務にあたる。

【実　績】

外来患者の動向（上段：月合計／下段：１日平均）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
平　成 30年度	1,975 94	2,391 113	2,260 113	2,459 111	2,527 120	2,118 111	2,558 116	2,418 120	2,207 105	2,179 114	2,113 111	2,298 114
令　和 元年度	2,367 118	2,216 116	2,204 110	2,592 117	2,389 113	2,138 112	2,547 121	2,174 108	2,256 112	2,103 110	2,048 113	2,291 109

平成30年度	令和元年度
合　計　27,503 一日平均　112	合　計　27,325 一日平均　113

文責　伊藤　千春

【部署名】
2 階病棟

【種　別】
精神一般

【病床数】
50床

【職員数】
33名（看護師23名　看護補助員 5 名）

【業務内容】
2 階病棟は、開放処遇対象の精神疾患の患者や内科的疾患を合併している患者、廃用症候群等により寝たきり或いは歩行が困難で車椅子生活を余儀なくされている患者が通常 7 割以上入院している病棟である。寝たきり予防のため、車椅子の乗車時間を設け、作業療法（以下OT）への参加を促し、心身共にメリハリのある日常生活を送れるよう細心の注意を払いながら、事故のないよう援助・ケアを提供している。さらに、経管栄養が必要な患者が 2 割を占める。個人OTとして個別の身体リハビリも実施しており、機能の向上・維持を図るなど、病棟担当OTと一緒に援助・指導している。認知症の患者もいるため回想法を実施している。急性期の内科疾患患者の輸液・酸素管理など、身体的な管理や高齢に伴う精神科薬投与量の見直し（転倒リスクを踏まえた）にも注意を払っている。又、経管栄養の管理や、終末期ケアでは患者の希望に沿った援助の中にアロマを取り入れている。

【2019年度振り返りと今後の展望】
1．具体的に実践し評価できる病棟目標にする
病棟目標：「声掛けし確認し合い事故防止。患者様の気持ちに立ち寄り添い温かい看護を提供」
月ごとに病棟内で事故のリスクが高い事項（経管栄養チューブの抜去や与薬など）を具体的目標として意識的にかかわることで、事故件数は、昨年度123件、今年度85件と 3 割ほど減少し、（ドレーン、チューブ類のみでは半分、与薬のみでは 2 割）声掛け確認の目標の達成度は高かったと言える。業務の多忙さからか患者立場での看護提供の自己評価は低かった。次年度も継続していく事でより良い結果になると思われる。

2．更なる接遇向上への取り組み
接遇目標：「笑顔で挨拶し、心のこもった丁寧な対応をします。」
あいさつや丁寧な対応に焦点をあてた接遇を 2 年間目標に掲げることで、静かな環境の中、穏やかな笑顔がたくさんみられた。今後はもう一歩踏み込み、笑顔、目線を合わせる、敬語をキーワードに具体的な取り組みを行っていく。

3．デスカンファレンスの導入
看取り看護ケアの向上とチーム力のアップを目的として実施を開始した。継続評価しながら、内容の検討を行っていく。

4． 2 交代制の導入と 3 交代勤務の選択
働き方改革として 2 交代勤務ができる環境を作るため導入をした。生活スタイルや体調によって 3 交代も選択できるようにしたことで、看護師自身のワークライフバランスや身体管理が良好になったと評価できた。

5．褥瘡予防対策の強化
体位変換係と褥瘡係による患者様への個別プランで体圧分散を行ない、褥瘡患者の減少が認められ、発生件数が大幅に減少した。

6．配薬カートの導入
与薬準備業務の短縮化ができた。与薬の安全性を確保するためにはマニュアルを遵守したカート使用の確実な手技の徹底が求められる。
7．食事開始時の評価
食事開始評価表に基づいた食事選択の食事開始をマニュアル化することで、肺炎治療後や経管栄養からの経口摂取切り替えを安全に実施できるようになった。
8．口腔ケアへの取り組み
口腔ケア係の積極的な研修と伝達講習を行い、誤嚥性肺炎防止のためのケアを継続していく。

以上を振り返り、今後も業務改善を意識し新たな取り組みを行いながら向上を図っていくことが、病棟のコンセプトである「全ては患者様のために」に繋がっていくのではないかと考える。

文責　柴田　実子

【実　績】

	特殊疾患入院施設管理加算対象率
4 月	71.7%
5 月	71.1%
6 月	70.5%
7 月	70.8%
8 月	70.2%
9 月	70.8%
10月	70.8%
11月	70%
12月	70.8%
1 月	71.4%
2 月	70%
3 月	70.4%

【2 階病棟患者個別身体リハビリテーション状況】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
介入平均	2.9	2.6	3.2	2.4	3.4	3.6	3.7	3.7	3.3	3.9	3.8	3.2
介入合計	58	41	64	53	72	69	78	73	73	75	68	67

【回想法実施状況】 1 クール 8 回　毎週火曜日14時～

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
参加人数	11名	2名	11名	20名	10名	12名	11名	7名	11名	11名	11名	10名

【部署名】
3階病棟

【種　別】
精神一般

【病床数】
59床

【職員数】
30名（看護師25名　看護補助員5名）

【業務内容】

長期入院者及び難治性患者の退院支援と、精神科救急病棟をはじめ、他病棟の後方支援病棟としての役割を担っている。

急性症状を呈した患者様と慢性症状を呈し入院が長期化している患者様が混在しており患者様の病状に合わせた生活スキルの向上、機能回復及び自立に向けた支援を行っている。

看護体制は、プライマリーナーシングと機能別看護であり、入院から退院まで一貫した担当看護師と担当精神保健福祉士が関わり、患者様自身の病状と治療の経過の評価・患者様ご家族様の面談の実施・必要な支援体制の提案を行っている。

患者様の希望を現実に繋げられるよう、定期的にカンファレンスを実施し、方向性を定め、多職種によるサポート支援も進めている。

退院後の支援についても、社会資源の情報提供や、地域で関わる関係者との面談やカンファレンスも実施し、患者様が安心してその人らしい生活が送れるよう、関係者で支援体制作りをしている。

【今後の展望】

今年度の病棟目標は、一昨年度の病棟目標『私たちは日々の関わりの中で患者様のサインに気付き、安全な看護を提供します』の評価で、安全という面での達成が出来ていない事もあった為、2年継続して、より安全面に意識を持って同じ目標で取り組んできた。

ＣＶＰＰＰ勉強会や救急対応の勉強会、朝のカンファレンスで積極的に状態の変化ある患者のカンファレンスを実施し、早期に安全な看護を提供することができた。目標の振り返りで、スタッフから概ね達成できたと多くの意見あり、今年度のステップアップも兼ねて、来年度の目標は「私たちは個別性に応じた安全な看護を提供します。」とした。

患者に安全な医療サービスを提供することは、医療の最も基本的な要件の一つでもあるため、職員の意識啓発も進めながら、目標達成に向け看護を提供していきたい。

また来年度は、3階病棟を急性期治療病棟として立ち上げることが決まり、その準備をしている。同時にクロザピン導入についても検討しており、並行して着手している。

データ管理の準備や職員教育についてなど､双方ともに順調な経過となるよう､スタッフ一丸となって準備に余念がない。

心理教育については、昨年から準備し8月から開催したが、1クールの開催で終了となってしまった。対象となる患者がいなかったこともあるが、準備不足やマンパワーの不足も要因に挙げられる。急性期治療病棟立ち上げには心理教育が必須と思われ、継続した心理教育の運営も検討していかなければならない。

課題は沢山あるが、スタッフのやりがいや期待に繋げ、ワンチームで乗り切りたい。

来年度は、病棟の目標を達成できるよう援助し、入院している全ての患者様の希望する生活実現のため、以下の内容に重点を置き、継続して支援を進めていく。

- プライマリーナースとして責任を持って、看護を提供する
- チームとして継続した看護を実践する

3階病棟

・患者様やご家族様が安心して入院出来る、安全で清潔な環境づくりに努める
・行動制限の早期解除に向けた評価と取り組みを行う
・地域における支援者との関係作りや社会資源の活用とサポートを行う
・心理教育を実施し病気に対する正しい知識を提供する
・急性期病棟を立ち上げ、多職種で情報を共有しながらチーム医療を実践する
・クロザピンを導入し、治療抵抗性統合失調症患者の症状改善の援助をする

文責　**神田由香里**

【実　績】

2019. 4 ～2020. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入　　院	4	7	7	6	2	2	5	4	7	8	9	4
退　　院	9	9	9	7	6	6	8	4	11	14	7	7
転　　入	7	8	10	9	6	12	11	13	11	10	3	5
転　　出	5	4	8	6	4	5	11	9	9	5	4	12
1日平均患者数	54.3	54.5	56.5	56.6	57.7	56.8	55.7	57.3	57	57.1	57.2	52.8

【心理教育】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加平均数					5	5	5	4				

※8月から開始　今年度は1クールのみの開催

【部署名】
4階病棟

【種　別】
精神一般

【病床数】
58床

【職員数】
29名（看護師21名　准看護師１名　看護補助員７名）

【業務内容】
4階病棟は比較的安定した慢性期の精神症状を有する患者の他、救急病棟で治療対象とならない認知症患者の受入れ病棟という位置づけである。
慢性期の長期入院患者には社会参加・社会復帰するための支援を、認知症患者や日常生活で介助を要する患者には、快適で穏やかな療養生活を提供し、退院へ向けてのアプローチを行っている。
昨年度同様に認知症患者を対象とした小グループを作り、感情の安定や不安感・孤独感の軽減、自分の培ってきた力の再発見、自尊心の向上などを目指した『回想法』を実施継続してきた。今後も引き続き実施していく予定である。
昨年度より精神保健福祉士の病棟配置により、家族相談や他施設や関係機関などの調整、退院後の帰結先やサービス利用など、スムーズな退院支援に繋がっている。
病棟患者の平均年齢70歳、認知症患者の病棟における入院比率も60％前後となっている。転倒や誤嚥などのリスクが高くなっているため、リスクの軽減ができるような看護、援助を行っていく必要がある。

【今後の展望】
・退院に向けた多角的なアプローチとサポートの継続
・担当による、患者個別のコーディネイトと院内外の他職種・関係各所との連携
・環境整備や身体機能の維持、向上を図ることによる転倒リスクの軽減
・急変時の対応
・患者対応時の接遇意識の向上

文 責　深井真奈美

【実　績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院	0	1	0	1	1	2	1	1	3	2	1	2	15
退院	3	5	3	5	6	7	6	8	10	4	3	8	68
転入	6	1	9	7	7	7	11	17	11	4	5	11	96
転出	3	1	3	7	2	3	6	10	3	3	3	4	48
1日平均患者数	57.7	56.5	57.4	56.5	57.8	57.5	57.0	57.9	57.9	57.7	57.3	56.4	57.3

5階病棟

【部署名】

5階病棟

【種　別】

精神一般

【病床数】

58床

【職員数】

23名（看護師21名　看護補助員２名）

【業務内容】

開放病棟という環境的な位置づけから、ストレス症状を持つ軽度のうつ病や心身症、思春期精神疾患など緊急避難的な短期休息入院を目的とした利用がある。また精神科救急病棟の後方支援病棟として、症状の安定した方や、長期の療養が必要な方を受け入れている。

患者自身が看護師や他職種と共に目標を立て、退院後の生活をイメージできるよう適切にコーディネートし、個々に応じたプログラムを提供している。

病棟プログラムとしては、生活技能訓練（SST）、心理教育、認知行動療法、マインドフルネス、アロマセラピーなど、ストレス緩和を目的としたプログラムに重点を置き実施している。今年度は新たにWRAP（元気回復行動プラン）、長期入院患者の退院支援を目的とした生活技能訓練（SST）を実施した。

【今後の展望】

病棟再編に伴い、３月に開放病棟から閉鎖病棟へ変更となった。今後は難治性患者の受け入れも視野に入れ、今まで以上に柔軟な対応が求められる。社会復帰病棟としての位置づけは変わらないが、専門職として様々な疾患に対応し、社会生活を想定した専門性の高いケアの提供が必要であると考える。

また、チームで情報を共有し入院から退院まで継続したケアを提供する事に重点を置き次年度の病棟目標を掲げた。

「専門職としての自覚をもち、看護実践する」

- 職業人として自己研鑽する。定期的な部署勉強会の実施。
- 他部署との連携を強め、チーム医療に貢献する。
- 看護師主体のチームカンファレンスを実施。

文 責　佐藤　敦子

【実　績】

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
入　院	8	5	4	4	6	3	3	4	1	2	7	1	48
退　院	12	11	9	13	9	12	9	8	11	14	13	5	126
転　入	9	8	10	11	9	13	10	8	9	11	7	12	117
転　出	5	4	2	1	5	6	2	0	3	2	1	2	33
１日平均患者数	53	48.3	52.5	54.5	55.6	55.1	54.7	54.4	55.7	54.2	52.8	54	54

【部署名】
南病棟

【種　別】
精神科救急

【病床数】
60床（１階28床・２階32床）

【職員数】
44名（看護師40名・准看護師１名・精神保健福祉士３名）

【業務内容】
南病棟は主に精神疾患の急性症状を呈する患者の症状改善と安全に務め、集中的な治療と看護を提供している。
患者に安心して療養できる治療環境を提供するため一般床49室はすべて個室、他に特別室２室、保護室９室、集中的な身体面の治療とケアが行えるPICUを設置している。
個別受け持ち制+機能別看護で入院時から担当看護師と精神保健福祉士がかかわっている。本人や家族に対して必要な情報提供や支援体制の提案、心理社会療法プログラムの選定（病状自己管理モジュールSST・認知行動療法・心理教育・回想法・作業療法)、患者自身による病状と治療経過の評価、家族・患者面談など担当看護師がコーディネート役として、患者が担当スタッフと話し合いながら主体的に治療を進めている。
その他臨地実習指導者を中心として、学生が伸び伸びと実習できる環境づくりと精神科看護について深い学びができるよう関わっている。

【今後の展望】
・措置入院者退院支援計画の策定を実施し、行政や関係機関との連携
・担当による、患者個別のコーディネートと院内外の他職種・関係機関との連携
・精神科救急病棟入院料算定要件の維持
・地域で精神科救急病棟としての役割を果たすため受け入れ態勢の整備
・患者対応時の接遇意識の向上
・おもに高齢者による転倒・転落による事故の防止

文責　布川征一郎

【実　績】

1．病棟利用状況	平成30年度	令和元年度	前年比
入院・転入患者数	379	444	65増
月平均入院患者数	31.6	37.0	5.4増
平均在棟日数	64.4	53.8	10.6増

2．新規入院患者入院率と退院率（%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院率	100.0	99.4	99.8	99.8	99.8	99.3	97.1	97.1	98.4	99.3	100.0	99.1
退院率	71.88	83.33	88.57	70.27	70.97	82.35	84.62	69.44	71.88	82.14	74.07	82.76

3．各種プログラム参加状況（月あたりの平均参加者数と年間延べ参加者数）

	平均参加者（月）	延べ参加者数
SST	16.5	199
心理教育	31.2	375
回想法	20.8	250
認知行動療法	7.8	94
作業療法	306.8	3682

中央材料室

【部署名】

中央材料室

【職員数】

3名（検査科スタッフが兼務）

【業務内容】

- 各病棟からの注文伝票による医療材料（酸素ボンベ・携帯酸素含む）、衛生材料（患者様のオムツ等）の払出し。
- 必要物品の担当業者への発注と納品された物品の検品。
- 全病棟から受け取っている医療器材の高圧蒸気滅菌による滅菌消毒。
- 患者様の介護用品（車椅子、保護帽、リハビリシューズ、シルバーカー等）の受注、及び担当業者への発注と用品の納品。
- 院内に設置されているＡＥＤの点検と管理。
- 依頼のあった医療機器及び材料等の研修会についてメーカー担当者と調整。

【今後の展望】

- 常に新たな感染症に対する情報を関係者と共有し、医療材料・衛生材料を安定供給することで診療現場での混乱を未然に防げるように努める。
- 年々、精神及び身体的に多種多様な病態をもった方が増え、必要となる医療材料の種類も増えてきたと感じる。引き続き医療材料に関する新しい情報を収集しより良い物品を提供していく。
- 患者様が介護用品等を購入する際には、各部署スタッフと一緒に一人ひとりに適したものを提供して、日常生活がスムーズに過ごせるように手助けをしていく。

【実　績】

令和元年11/6 令和元年12/12	2階病棟にて全病棟職員を対象にシリンジポンプ使用法について講義 ㈱ニプロ担当者に依頼）
令和2年2/6,19	3階病棟にて全病棟職員を対象にモニター使用法について講義 ㈱日本光電担当者に依頼）

文責　村木　憲一